

# 大障教ニュース

大阪府立障害児  
学校教職員組合  
大阪市天王寺区  
東高津町7-11  
府教育会館704号  
TEL 06-6765-8904  
FAX 06-6765-8905

## 多数の人とのずれ、共感されにくさを理解して

### 「障害児の心の理解と教育実践」

～自閉症スペクトラム児との関わりの中で～

#### みんなで考える教育のびびるNOME

9月2日(土)、みんなで考える教育のびびるNOMEの記念講演がありました。午後からは、4つの分科会を設け、レポート発表・討議 交流の形で行いました。午前・午後合わせて、約80人の参加がありました。

講演する別府哲さん



全体会では、基調報告の後、別府哲さんから講演いただきました。最初に、「自閉スペクトラム症児者に対して、できないことをできるようにする」とな支援なのでしょか？」と問いかけられました。「できないのではなく、多数の人とずれてしまっている。ユニークなとらえ方をしているのでは？そんな彼女らに理解して近づけることが支援なのではないでしょうか？」と語られました。そして小学4年生の自閉症スペクトラム症児の

きもせず平気であったけれど、本当は悲しんでいたのですね」とおっしゃっていたそうです。彼の発言は一見、相手の心を理解していないように見えますが、理屈があり、意味があることだったのでした。

#### 参加者の感想



- ◆とても優しい気持ちになりました。「共感が弱い」のではなく、「共感してもらおう体験が少なく、力が伸びる機会が少ない」という話が目からウロコではっとさせられました。
- ◆子どもたちの好きなことを一緒に楽しむ。その基本に立ち返りたいと思いました。
- ◆すごく参考になりました。アセスメントチェックやシラバスや指導計画など、「上から教えていく」になりがちだった息苦しさから、ひとつ突破口になりました。
- ◆分科会では、若手の先生方が熱心に取り組んでいる様子に感動しました。



全体会で拍手を送る参加者。楽しいエピソードに笑い、うなずき、あっという間の時間でした。

自閉スペクトラム症児者は共感されにくさがあると上で、共感される体験の大事さをさまざまなエピソードを踏まえてお話ししてくださいました。「好きな世界をわかってもらえたい体験は、課題に立ち向かう余裕とエネルギーになる」「時には、怒りをぶつけてこられる家族もいるが、怒りではなく、その背景に悲しみがある」とおっしゃったことがとても印象的でした。別府先生は、優しい語り口調で、子どもたちや周りの大人たちの楽しいエピソードをた

福井の親戚(農家)から母に「新米」が届いた。福井は父の生まれ故郷だ。父は鬼籍に入っている。母に聞くと、「新米を毎年いただき、歳暮を贈る関係が続いている」らしい。米の収穫は十月あたり。私が勤務する学校の周りには「田んぼ」が広がり、実った稲穂が美しい。すでに稲刈りが終わっている「田んぼ」もある。

#### 書記局のつうしん

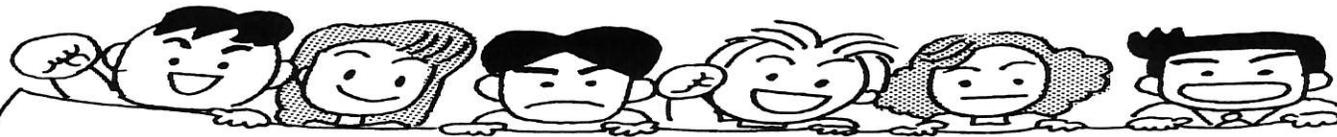
つうしん



農家に伺ったことだが、稲刈りの実施日を決めるのは難しく、それが「兼業」農家であればなおさららしい。刈り取りが遅くなると、実際に稲穂が落ちてしまう。雨で稲がぬれると、機械にそれが絡みついて刈り取りができなくなるそう。兼業なら、刈り取りが可能に日に制約が加わる。

私が住む地域は、「田んぼ」が比較的残っている。しかし、この20年ほどで多くが住宅に姿を変え、耕作放棄地も見られるようになった。「田んぼ」は、土に手を加えないと干渉のバクテリアなどの微生物が減少し、「ヘドロ」がたまる。その結果、「死米」が増加するらしい。玄米は粒の充実度によって、整粒・未熟粒・死米に分けられる。「死米」は、玄米をつけて白くする段階で砕けて、砕米・粉状質になってしまう。

農作物は土で育つ。人間はそれを食べる。「土を大切にすることは、命を大切にすることにつながる」と農家の方が話しておられた。土を大切にするには、時間と労力が必要だ。「ペットボトルの水より安い米」と話題になったこともあったが、異常に低い日本の食料自給率向上と農業従事者の処遇改善を国が率先して具体化する必要がある。



# ろう学校4校 新歓企画「わたしとろう教育」

ろう学校4校新転任者歓迎企画「わたしとろう教育」を、6月23日(金)たかつガーデンで開催しました。今回は、各校からお一人ずつ、ろうの先生にお話しいただいた後、交流をおこないました。青年教職員や未組員の方、ろう学校以外からの参加を含め25人が集いました。予定時間を30分も延長し、ろう教育への思いを語り合う場となりました。

中央聴覚(以下、中央)の李さんからは、堺聴覚(以下、堺)と中央で勤めた経験から見えた2校の違い、小6担任としてとりくんだ幼稚部との交流企画で成長した子どもたちの姿、寄宿舎に入舎した児童を寄宿舎の先生方と連携しながら見守る楽しさと子どもの変化、寄宿舎の大切さのお話がありました。会場からは寄宿舎での過ごし方の質問があり、寄宿舎の近友さんから通じ合うコミュニケーションを積み重ね、人との良好な関係を築けるようになってきた子どもの様子が語られました。

生野聴覚(以下、生野)の佐々木さんからは、堺と生野で教員をする前に勤めていたろう重複の人の福祉施設での経験から、「どういいう人生がより良いのか」「人生を見通してどのような教育をしていくのか」を常に考えながら子どもと向き合い、担当している図工の授業をしているというお話がありました。また、「なぜろう学校で日本語を身につけることが求められるのか」という問題提起があり、日本社会で手話通訳者を仕事とする人が増えない現状と結び付けて投げかけました。ご自身が30年前にろう学校で教育実習をした時に「子どもたちをろう者にしたくない。難聴者にしたい」と言われた体験を語り、会場は衝撃を受けました。子どもたちが生きやすい社会に変えていく運動に、ろう学校の教員もかわって行くことの大切さも呼びかけられました。

だいでん聴覚(以下、だいでん)の世森さんからは冒頭、生徒からの要求2点「聴覚支援学校という名称をやめて『豊学校』に戻して」「だいでんにも寄宿舎を建てて」をどう実現するか?と提起され、会場はどよめきました。社員として働いていたが、姫路豊学校から「ろうの教員が少なからず」と呼ばれ教員になった経歴と、1995年豊文化宣言の集会に参加して日本語と豊文化を知ったことを語りました。また、姫路、神戸、大阪市立では学校独自の手話があることや、生野やだいでんではこのような手話がほとんどないことを紹介し、幼稚園から高等部まであれば豊文化や手話が引き継がれることや、幼・小の子どもが高

## 参加者の感想



- 質問にも答えていただいて、自分の悩みが解決したような感じがしました。生野に来てから、自分にとっては新鮮なことばかりで、手話がある程度できていても難しさの壁にあたっていたので、仲間がいるんだなという安心感が味わえました。
- ろうの先生のお話が聞けて良かった。
- 4校の良いところ違うところが知れて良かった。もっと情報交換をして良いところを持ち寄って魅力的な学校にしていきたい。
- 一人一人を主人公にする組合の真価を発揮する場の一つとなった。
- 今日のような集会がもっともつとあることを願います。



ろう教育への思いを語り合う参加者

等部の生徒にあこがれを抱きながら育つ大切さを語りました。だいでんが施設面でろう者が使いにくいところがあることを紹介し、ろうの教員にも情報保障がきちんとされるべきだと訴えました。目の前で教員と難聴・人工内耳装着の生徒同士、健聴の教員同士が声だけで話している時の子どもたちの気持ち、教員間の情報共有のあり方を考えてほしいという話、豊団体と難聴団体が分かれていることへのさびしさにも触れ、お話を締めくくられました。

堺の川上さんは、ろう学校で勤め始めたときに「ろう教育は10年やって半人前」と言われたことを紹介し、今も初心を忘れないようにしていると語りました。生野と堺で勤めた経験から、子どもは基本的に変わらないけれど、人工内耳などの補聴機器の進歩がめざましいことのお話もあ

りました。3年前のコロナ禍ではマスクを着けることを求められたが、マウスガードやフェイスシールド、アクリル板を用いて、子どもたちに口形が見えるようにすることを貫いたことも紹介され、「だいたいわかる」では本当にかかったことにならない、聴覚の厳しい子どもたちの代弁者でありたいと語る口調に、川上さんの信念が伝わってきました。地域の小学校に通う豊の子どもが「マスクを下げてください」って言えなかった、そのしんどさを解決できなかったことを後悔しながら今も考えることがあると話されました。また、情報機器が進化して地域の学校でも情報保障が進む中、「ろう学校の価値は何か」と

問題提起され、地域の学校に遅れをとらず、保護者や子どもたちから選んでもらえる学校になるよう努力していこうという呼びかけもありました。

4人の方のお話の後は、参加者一人ずつ自己紹介と感想などを発言し交流しました。学校でのとりくみ、子どもたちの様子、日頃の悩み、入学者数が減少している実態、運動や組合の大切さなど幅広い発言がありました。2次会にも16人が参加し、学校を越えて話に花が咲きました。

ろう学校に勤めて3か月、2年目という方の参加もあり、未来を感じる学習会となりました。

(生野聴覚支援分会)

前田 綾

## 大障教 女性部&青年部 学習会 『わたしの戦争体験』

講師：元 中津支援学校教諭 綾部 多美 先生(元府障教執行委員)  
田満州奉天で生まれ現地の日本人学校に通われ、終戦後、大変な思いをして日本に戻ってこられました。現在は「戦争体験の語り部」として主に小学校で講演を行っていらっしゃいます。

日時：2023年10月21日(土)午後1時30分～3時30分  
会場：たかつガーデンB1階オーブ または オンライン(ZOOM)

△たかつガーデン(大阪府教育会館) 大阪市天王寺区東高津町7-11  
近鉄「大阪上本町」または 大阪メトロ谷町線「谷町九丁目」より徒歩

### 申込先

QRコード→

メール: fushoukyou\_1@mtb.biglobe.ne.jp

FAX: 06-6765-8905

